

留学生の受入・派遣および職員の国際化に対する取組み
ー北欧諸国の大学の取組み例ー

ストックホルム研究連絡センター

廣瀬 良子

1. はじめに

文部科学省ほか関係省庁（外務省、法務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省）により、2008年に「留学生30万人計画」の骨子が策定され、その後「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（グローバル30）」、「大学の世界展開力強化事業」、「スーパーグローバル大学創成事業」等の大学の国際化を支援する事業が次々に開始された。現在、大学は国際化へのさらなる取組みが求められている。今後ますます増えていくことになる留学生や外国人研究者に対応するため、ソフト面・ハード面両方の整備は急務である。

北欧諸国の大学においても、大学の国際化・国際競争力の強化は重要視されている。レポートの作成にあたっては、ストックホルム大学（スウェーデン）、オスロ大学（ノルウェー）、ヘルシンキ大学（フィンランド）の各大学において国際交流担当者のインタビューを実施し、各大学における留学生の受入・派遣の取組み、大学職員の国際化を目的とした研修について話を伺うことができた。各大学における取組みについて調査できたことは大変興味深いものであった。

2. 調査対象・質問項目

実地調査として、ストックホルム大学（スウェーデン）、オスロ大学（ノルウェー）、ヘルシンキ大学（フィンランド）において、留学生の受入・派遣や国際交流の担当者へのインタビューを実施した。調査対象大学の選定理由としては、各大学とも複数の日本の大学と協定を持ち、国際交流が盛んである点および、筑波大学と同様に複数の学部や研究科を持つ総合大学である点である。インタビューでは、留学生の受入・派遣への大学としてのサポート、大学職員の国際化を目的とした研修に焦点を当て、各大学の特色ある取組みについて話を伺った。

【質問項目】

学位プログラムへの受入学生

- 1) 留学生の出身国および留学生数
- 2) 英語による学位取得が可能な学部レベルプログラム
- 3) 現地語（スウェーデン語・ノルウェー語・フィンランド語）レッスンの提供
- 4) 経済的支援
- 5) 在学生による留学生サポート（バディ・システム）

短期交換留学生

- 1) 留学生の出身国および留学生数
- 2) 宿泊先の提供

3) 短期留学生への特別なサポート

派遣留学生

- 1) 人気のある留学先
- 2) 交換留学を行った学生数
- 3) 広報
- 4) 経済的支援

その他

- 1) 特色のある取組み
- 2) 事務職員の国際化を目的とした取組み

3. 北欧諸国の大学における留学生の受入・派遣状況について

3-1

ストックホルム大学

概要：1878年創立のスウェーデン最大の大学であり、Times Higher Education社の世界大学ランキングでは136位、上海交通大学の世界大学学術ランキングでは77位となっている(2015年)

所在地：ストックホルム市

学生数：学部および修士課程 29,097名 博士課程 1,788名

留学生比率：8%

学部・研究科：科学系（数学物理学・化学・生物学・地球環境学）

人文社会科学系（人文学・法学・社会科学）

日本の大学との協定：東京大学、京都大学、九州大学、東北大学、早稲田大学、日本大学、中央大学、東海大学、名古屋商科大学、立命館大学、南山大学



インタビュー対応者：International Officer, Ronald T. Nordqvist さん

インタビューを実施した Studenthuset は、International Office をはじめ、履修登録、証明書申請、キャリアアドバイス、学習カウンセリング、自習スペース、学生ユニオンデスク等の学生に必要な機能、情報が集約されており留学生はもちろん現地の学生にとっても便利な施設となっている。



左から：Studenthuset の外観、ラウンジスペース、Student Service カウンター（ストックホルム大学 HP より転載）

学位プログラムへの受入学生

1) 留学生の出身国および留学生数

スウェーデンでは、法律により学生登録の際に国籍を学籍システム上に登録しないため、出身国および留学生数は不明である。

2) 英語による学位取得が可能な学部レベルプログラム

- Global Management
- Business Administration and Political Science
- Earth Science

3) 現地語（スウェーデン語・ノルウェー語・フィンランド語）レッスンの提供

スウェーデン語を専攻していない学生についても、通常のカリキュラムの他に、スウェーデン語の授業が無料で提供されている。

4) 経済的支援

スウェーデンにおける授業料の徴収は、EU（欧州連合）または EEA（ヨーロッパ経済圏）加盟国およびスイス連邦以外からの留学生について、2011 年より実施されている。現在、大学として学部レベルの学生に対して、奨学金や授業料免除を実施してはいない。

【ストックホルム大学の授業料】

人文社会科学系（人文、社会科学、法律）年額 90,000 スウェーデンクローナ（約 127 万円）

科学系（自然科学）年額 140,000 スウェーデンクローナ（約 198 万円）

*1 スウェーデンクローナ＝14.16 円（2015.12.21）

5) 在学生による留学生サポート（バディ・システム）

学生ユニオンにより、組織的に運営されているサポートシステムが存在する。

大学からの支援として、International Coordinator の雇用経費が捻出されている。International Coordinator は主に、修士課程に在籍する学生で、フルタイム 1 名、パートタイム 2 名の 3 名体制で留学生支援、留学生向けイベント、在学生との交流を目的としたイベント等の企画運営にあたっている。Coordinator 自身も留学生であり、自身の経験を生かした対応ができるようになっている。また、ボランティアの International Student Ambassadors 制度があり、セメスター毎に数名が任命される。International Student Ambassadors は様々なイベントの企画・開催補助およびブログによる情報発信等を行っている。

短期交換留学生

1) 留学生の出身国および留学生数

前述の理由により、出身国（国籍）は不明であるが協定に基づく交換留学であることから、所属大学（派遣元）のデータは登録されており上位 5 カ国は以下の通りである。

- ・ドイツ
- ・フランス
- ・中国（香港を含む）
- ・フィンランド
- ・英国

2014/2015 年全体の短期交換留学生の受入は 1,128 名、日本からの短期交換留学生は、20 名である。

2) 宿泊先の提供

スウェーデンは、住宅事情が大変厳しく、現地の学生の住むアパートですら不足しがちである。ストックホルム大学では、大学間協定に基づく交換留学生の住居については保証している。

派遣留学生

1) 人気のある留学先

- ・英国
- ・フランス
- ・中国（香港を含む）
- ・米国
- ・ドイツ

2) 交換留学を行った学生数

2014/2015 年全体の短期交換留学生の派遣は 656 名、日本への交換留学生の派遣は、28 名である。

3) 広報

1～2年毎に International Week を開催し、情報提供を行うと共に留学への動機付けを行っている。

その他

1) 特色のある取組み

【留学生オリエンテーション】

インタビューに対応いただいた Nordqvist さんのご厚意により、ストックホルム大学において8月末に開催された新留学生のためのオリエンテーションを見学させていただいた。留学生がスムーズに留学生活を始めるための豊富な情報を提供すると共に、学生を飽きさせずにオリエンテーションを実施するための工夫が見られた。大学および関連企業等から担当者が各項目について10分程度の説明を行った。プレゼンテーションで話された内容からのクイズシートが配布され、優勝者には大学グッズが賞品として授与された。また、各プレゼンテーションの間にはスウェーデンの人気歌手（ABBA や Avicii 等）の音楽が流され、担当者はダンスをしながら登壇するなど活気にあふれていた。オリエンテーションが開催されたホールの外では、説明を行った担当者や学生サークルの勧誘のブースが設けられており、休憩の際に詳しい話を聞くこともできるようになっていた。



オリエンテーションの様子

オリエンテーションの概要

開催日時：2015年8月25日 12:00～17:00

参加人数：交換留学生 833名、正規学生 421名

プレゼンテーション：

- ・ Karin Bergmark 副学長による歓迎の挨拶
- ・ スtockホルム大学の概要：キャンパス案内や、大学の歴史・組織について
- ・ スウェーデンの大学システム：単位、履修システム、評価方法について
- ・ 銀行口座開設、社会保障について
- ・ ITサポート：大学でのアカウント作成やネットワーク利用について
- ・ スウェーデン語学習について

- ・学生割引による旅行、卒業後の就職支援について
- ・学生のヘルスケア
- ・大学図書館の利用方法
- ・危機管理について
- ・大学学生ユニオンについて

感銘を受けた点としては、オリエンテーションを録画し、翌日には大学のホームページ上で公開しており、参加できない学生や後日、情報を再度確認したい学生への配慮がなされていたことである。また、**Karin Bergmark** 副学長が歓迎の挨拶の中で、「留学生の一人ひとりがアンバサダーのような立場である、ストックホルム大学を国際色豊かにし、相互理解を深める役目を担ってもらいたい。また、ストックホルムでの生活を楽しんで是非、多くの友人にそれを伝えて欲しい、そのためにもソーシャルネットワーク (Facebook や Instagram 等) を積極的に活用して欲しい」と話されていたことも印象深かった。

3 - 2

オスロ大学

概要：1811年創立のノルウェー最初の大学であり、**Times Higher Education** 社の世界大学ランキングでは 135 位、上海交通大学の世界大学学術ランキングでは 58 位となっている（2015 年）

所在地：オスロ市

学生数：約 27,000 名

留学生比率：18%

学部・研究科：人文学、法学、数学・自然科学、医薬学、歯学、社会科学、神学、教育学

日本の大学との協定：名古屋大学、国際教養大学、城西国際大学、慶應義塾大学、上智大学、早稲田大学、東海大学、同志社大学、関西外国語大学、関西学院大学、長崎外国語大学、大分大学

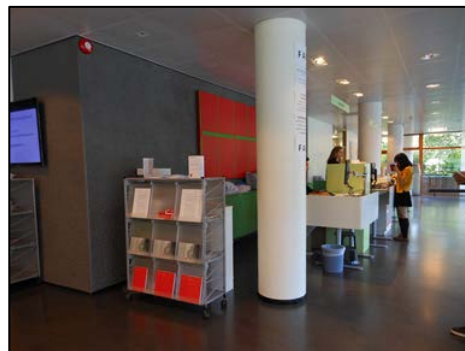


インタビュー対応者：Student Information and Communication Office, Marta Øvstetun さん

対応いただいた Øvstetun さんは、Erasmus+ (エラスムス・プラス) プログラムで支援されている欧州圏内の大学職員の研修交流で、他の大学が、どのようにオリエンテーションや留学生受入・派遣を実施しているのかを学ぶために、ストックホルム大学で実施された新留学生オリエンテーションに参加されていた。



International Office の外観



International Office カウンターの様子

学位プログラムへの受入学生

1) 留学生の出身国および留学生数

毎年、約 1,600 名の留学生が入学する。うち約半分が短期交換留学生である。2015 年秋学期には、52 名の日本人学生が在籍している。

2) 英語による学位取得が可能な学部レベルプログラム

オスロ大学では、現在のところ英語のみで学位取得が可能なプログラムは提供されていない。学部レベル留学生は、秋学期または春学期に実施されるノルウェー語のコースを修了した後に、3 年間の学部プログラムを開始しなければならない。

3) 現地語 (ノルウェー語) レッソンの提供

8 つのレベルで、ノルウェー語の授業が提供されている。受講希望者が多い場合には、学部レベル留学生と交換留学生が優先的に受講できる。

4) 経済的支援

オスロ大学では、授業料を徴収していない。ただし、登録料として 1 学期に 640 ノルウェークローネ (約 9,000 円) を支払う必要がある。また、ノルウェーでは、留学ビザ取得の条件として EU (欧州連合)・EEA (欧州経済圏) およびスイス連邦以外からの留学生に対して、留学する際の財政力の証明として、最低 100,920 ノルウェークローネ (約 140 万円) を大学に振り込まなければならない。これは、入学後に大学より本人に返金される事となっている。

*1 ノルウェークローネ=13.86 円 (2015.12.21)

5) 在学生による留学生サポート (バディ・システム)

各専攻の学生により、バディ・システムが運営されている。交換留学生・学部留学生は自動的に登録され在学生バディによる学業、生活面のサポートが提供される。

短期交換留学生

1) 留学生の出身国および留学生数

短期交換留学生の出身国上位は、以下の通りである。

- ・ドイツ
- ・フランス
- ・米国
- ・オーストラリア
- ・オランダ

日本からは、2014/2015年全体で28名が短期交換留学を行った。

2) 宿泊先の提供

大学周辺及び近隣の町に7,700部屋の宿舎（民間アパートメント含む）を提供している。留学生・交換留学生は学生ユニオンのウェブサイトで宿舎に申し込むことが可能となっている。滞在期間は最長で、5年間までとなっている。

3) 短期留学生への特別なサポート

留学生向けのイベントとして、ノルウェーをより良く理解し、滞在を有意義なものとしてもらうことを目的としてバスツアー、フィヨルド観光、博物館ツアーやウィンタースポーツコースを提供している。

派遣留学生

1) 人気のある留学先

派遣先の上位は以下の通り

- ・米国
- ・英国
- ・オーストラリア
- ・日本
- ・ドイツ

2) 交換留学を行った学生数

2014/2015年全体で、918名が派遣された。日本へは63名が派遣された。日本への派遣交換留学生の多くは日本語・日本研究を専攻とする学生である。当該専攻では日本の大学（城西国際大学、関西学院大学、東海大学）への1 Semester以上の留学を義務付けている。

3) 広報

各専攻単位で、留学情報イベントを開催している。また、大学ホームページに「Semester Abroad」ページを作成し短期からの留学を奨励している。

ヘルシンキ大学

概要：1640年創立のフィンランド最初の大学であり、Times Higher Education社の世界大学ランキングでは76位、上海交通大学の世界大学学術ランキングでは67位となっている（2015年）

所在地：ヘルシンキ市

学生数：約26,000名

留学生比率：6%

学部・研究科：農学・森林科学、美術、行動科学（教育学）、生物・環境科学、法学、医学、薬学、科学（数学、統計学、化学、地球科学、物理学、コンピューターサイエンス）、社会科学、神学、獣医学

日本の大学との協定：東京大学、京都大学、大阪大学、北海道大学、早稲田大学、神奈川大学、同志社大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学

北海道大学が、2012年4月よりヘルシンキ大学内に北海道大学ヘルシンキオフィスを設置している。



インタビュー対応者：University Bilateral Student Mobility Coordinator, Raisa Asikainen さん



Student Service Officeの様子

学位プログラムへの受入学生

1) 留学生の出身国および留学生数

学位取得を目的とした正規留学生は 2,201 名(2014 年)、うち日本人学生は 11 名が在籍している。

2) 英語による学位取得が可能な学部レベルプログラム

ヘルシンキ大学では、英語のみで学位取得の可能な学部レベルプログラムを提供していない。

3) 現地語 (スウェーデン語・ノルウェー語・フィンランド語) レッソンの提供

大学内のラングエッジセンターにおいて、フィンランド語のレッスンが提供されている。語学プログラムは、大学の学生だけでなく、一般にも開放されている。

4) 経済的支援

ヘルシンキ大学では、現在のところ授業料を徴収していない。ただし現政権の政策として大学への補助金削減および授業料徴収開始が検討されており、近い将来、授業料が導入される可能性は高い。

5) 在学生による留学生サポート (バディ・システム)

学生ユニオンによる支援が実施されている。ユニオンには、1 セメスターからの入会が可能で会員費は年額 100 ユーロとなっている。また、エラスムス制度で、留学する学生向けの学生ネットワークが独自に活動をしている。大学としては、連携という形で関わっている。

短期交換留学生

1) 留学生の出身国および留学生数

受入留学生の出身国上位は以下の通り

- ・ドイツ
- ・フランス
- ・イタリア
- ・スペイン
- ・中国

5 日以上 1 年未満の留学生 (学部・修士・博士レベル) 1,319 名 (2014 年)

3 か月以上 1 年未満の留学生 (学部・修士レベル) 998 名 (2014 年)

*大学への補助金助成に関連し、3 か月未満・以上の留学生を区別し集計している。

上記の留学整数のうち、日本人学生数は 24 名であり、教育・社会福祉分野への留学生が多い傾向にある。うち 18 名の学生は、日本語専攻の授業においてアシスタントを務めた。

派遣留学生

1) 人気のある留学先

派遣先上位は、以下の通り

- ・英国
- ・ドイツ

・スウェーデン

2) 交換留学を行った学生数

5日以上1年未満の留学生(学部・修士・博士レベル) 1,255名(2014年)

3か月以上1年未満の留学生(学部・修士レベル) 845名(2014年)

上記の留学生のうち、日本へは25名の学生が派遣された。フィンランドから日本への留学生は、人文社会科学系、芸術系または、物理学系の学生が多い傾向にある。

3) 広報

新入生オリエンテーション、ラングエッジセンター等で留学を広報している。日本向けとしては、大学内に事務所を設置している北海道大学や在フィンランド日本国大使館と共催で「Japan week」と題した留学フェアを開催した。インタビューに対応いただいた Asikainen さんによると、短期留学を拡大するには、単位互換制度の整備・拡大が最も重要で、専攻によって互換制度導入に大きなばらつきがあるとのことである。例として、単位互換制度の整備が進んでいる法学(国際法)専攻では、入学者のおよそ半分が卒業までに留学を経験する。

4) 経済的支援

アジア圏の協定大学へ留学をする学生は、2,000ユーロ(1 Semester)、2,500ユーロ(1年)の奨学金を受給することができる。

その他

1) 特色のある取組み

危機管理として、リスクマネジメントワーキンググループを定期的で開催している。2004年に発生したインド洋での津波災害や2011年の東日本大震災以降、特に重要視されている。また、近年では中東やアフリカ諸国におけるテロ等が発生した際を想定し、学生への注意喚起及び緊急情報や連絡先提供の徹底を図っている。

4. 職員の国際化を目的とした取組みについて

エラスムス・プラス

欧州連合(EU)領域内の学術研究交流支援のために始まったエラスムス計画(1987年開始)や域外との人的交流支援のエラスムス・ムンドゥス(2004年開始)の成功を受けて2014年に開始された。教育・職業訓練・青少年教育・スポーツを対象とする総合的な交流支援プログラムである。エラスムス・プラスでは、学生や教員の交流だけでなく、大学職員が欧州圏内の学術研究機関で行う研修も支援されている。

エラスムス・プラスによる職員の研修

エラスムス・プラスでは、EU 内 33 か国（英国、ベルギー、ブルガリア、チェコ、デンマーク、ドイツ、エストニア、アイルランド、ギリシャ、スペイン、フランス、クロアチア、イタリア、キプロス、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルグ、ハンガリー、マルタ、オランダ、オーストリア、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロベニア、スロバキア、フィンランド、スウェーデン、マケドニア、リヒテンシュタイン、アイスランド、ノルウェー、トルコ）を対象に、対象国内のエラスムス・プラスプログラム参加機関における職員研修を支援している。

ストックホルム大学の場合

エラスムス・プラスプログラム参加大学における自身の職務に関連のあるセミナー、ワークショップ等に参加するための経費の支援をしている。

申請条件は、以下の通り

- ・ストックホルム大学の職員であること
- ・上司（Manager）の許可を得ていること
- ・研修期間は、2 日以上 2 か月以内であること
- ・研修は、1 つの機関で継続的に実施されること
- ・研修後、1 か月以内に報告書を提出すること
- ・研修中の給与は大学より支払われる

オスロ大学の場合

ストックホルム大学の留学生向けオリエンテーションに参加されていた Øvstetun さんもこの研修の下でスウェーデンを訪れていた。

申請条件は、以下の通り

- ・研修期間は、2 日以上 2 か月以内であること
- ・欧州圏内のエラスムス・プラスプログラム参加高等教育機関の場合は、5 日以上であること
- ・受入れ機関からの承諾書を提出すること

研修の例として、Training week への参加や語学研修、Job-Shadowing などが挙げられている。

ヘルシンキ大学の場合

International Staff Exchange Week として、毎年ヨーロッパ内の協定大学の職員を対象とした 1 週間の研修を実施している。研修では、大学職員業務に関する意見交換や、各業務における協定大学職員とヘルシンキ大学の職員の担当者同士の交流などが行われる。業務に関する研修の他、フィンランドの文化紹介や言語レッスンも実施され、フィンランドとヘルシンキ大学を紹介する機会となっている。

5. まとめ

インタビュー調査を終えて、各国の大学共に制度面の整備や経費支援（給与の支給）などは大学が実施しているが学生ユニオン等の在学生の協力を最大限に生かしていることが解った。これらは、同じ学生または留学生の先輩としての視点から留学生の望む支援が提供できるとともに、在学生への経済的支援および在学生在がイベントの企画・運営経験を積むことができるといった利点がある。さらには、大学側としても、留学生の定着支援に関して教員・職員の負担軽減に繋がる。

留学生の派遣・受入に関する取組みとしては、北欧は一般的に英語力が非常に高く、大学において留学生・在学生・教職員間のコミュニケーションに問題はなく、生活における問題もほとんどないと考えられる。これらの国に留学を考える学生にとってはハードルが低い。しかし、学部レベルにおいては英語による学位取得の可能なプログラムは非常に少ない。各大学の担当者へのインタビューにおいても、学部レベルにおいては英語プログラムの創設（増加）よりも交換留学の増加に焦点を当てていることがわかる。交換留学の増加については、各大学ともに日本との留学生の受入・派遣を増加させたいと考えている。北欧の大学では、ギャップイヤー（大学入学前の1年間）に海外に長期間滞在しボランティア活動や旅行をする学生も多く、入学後は大学での学業に専念したいと考える学生も多いようである。留学担当者は、交換留学に興味を持ち、参加したいと考える学生を増やすため留学推進イベントの開催、情報提供を実施している。また、近年の日本のサブカルチャーの人気をうけ、日本に興味を持つ学生は多いと話していた。単位互換制度の拡大、英語による授業が更に整備されれば、日本との学生交流はさらに活発になると考えられる。

職員の国際化を目的とした研修については、エラスムス・プラス制度を利用した欧州圏の大学における研修が積極的に実施されている。欧州圏の大きな枠組みで実施されているこの制度を導入することは難しいが、国内の大学同士で留学生受入れに関する知識や経験を共有することは非常に有益であると考えられる。留学生受入れや派遣の多い大学に赴き、留学生オリエンテーションや在学生向けの留学推進イベントの見学や実施補助をする等の研修が実施できれば、担当職員の知識修得、モチベーションの向上に役立つと考える。

6. 謝辞

本レポート作成にあたりインタビューにご協力いただきました各大学の皆様にお礼を申し上げます。また、この2年間の研修参加の機会を与えてくださった日本学術振興会および筑波大学の皆様にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。東京本部での1年間では、研究協力第二課において国際交流事業について多くを学ぶことができました。山口課長、岩村係長をはじめ課の皆様にご心よりお礼申し上げます。スウェーデンでの1年間では、常に励まし、支えて下さいました阿

久津センター長、川窪副センター長、村上国際協力員、タシマ現地職員にお礼を申し上げたいと思います。さらに、本研修に参加した国際協力員の皆さんからは、同じ大学職員として学ぶことが多く、刺激を受けました。ありがとうございました。

7. 参考資料・出典

- ・ストックホルム大学 (2015年12月22日アクセス) <http://www.su.se/>
- ・ストックホルム大学学生ユニオン (2015年12月22日アクセス) <http://www.sus.su.se/en>
- ・ストックホルム大学オリエンテーション (2016年2月8日アクセス)
http://www.su.se/polopoly_fs/1.265108.1452851884!/menu/standard/file/Orientation%20Day%20Programme%20V16%20without%20Quiz.pdf
<https://www.youtube.com/watch?v=VdJU-dRnUq4>
- ・オスロ大学 (2016年1月6日アクセス) <http://www.uio.no/english/>
- ・オスロ大学学生ユニオン (2016年1月17日アクセス) <https://www.sio.no/en/shortcuts/about-sio>
- ・ヘルシンキ大学 (2016年1月6日アクセス) <https://www.helsinki.fi/en>
- ・北海道大学ヘルシンキオフィス (2016年1月28日アクセス) <http://www.hokudai.fi/>
- ・文部科学省「留学生30万人計画」(2015年12月23日アクセス)
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/07/08080109.htm
- ・European Commission Erasmus Plus (2015年12月23日アクセス)
http://ec.europa.eu/programmes/erasmus-plus/discover/guide/index_en.htm
http://ec.europa.eu/education/opportunities/higher-education/index_en.htm
- ・駐日欧州連合部 (2015年12月23日アクセス)
<http://www.euinjapan.jp/resources/news-from-the-eu/news2014/20140922/183507/>
- ・Times Higher Education World University Ranking 2015-2016 (2016年1月6日アクセス)
<https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2016/world-ranking#!/page/0/length/25>
- ・上海交通大学世界大学ランキング 2015 (2016年1月6日アクセス) <http://www.shanghairanking.com/ARWU2015.html>